



「市民大学トラム」～和の歳時記～

本年度の「市民大学トラム」では、「うちわ」「風呂敷」「ちりはたき」といった日本古来からの道具や「和服」について学んでいます。8月7日の講座では大賀屋呉服店7代目：植田浩一郎先生から「風呂敷」のいろいろな使い方について、実際に「風呂敷」を自分で使いながら、「こんなに簡単に風呂敷でこんなことができるの!」ということを実験することができました。



講師：植田浩一郎 先生



こんなおしゃれなティッシュ箱カバーに

また、9月11日の講座では「手仕事の古布『ちりはたき』」について、講師の内藤満里子先生に三河木綿の古布を使った、「はたき」を自分で作成しました。また、和服は着なくなっても、ほどいたり、切ったりして、最後までむだなく、再利用できるという日本人の古来からの知恵が生きている素晴らしいものであることを再認識することができました。最近では和服を普段から着ている方はめっきり少なくなったことから、内藤先生は和服のすばらしさをもっとたくさんの人に知ってほしいと不要になった和服を知り合いからいただき、その和服の柄から似合

いそうな知り合いを思い浮かべて、差し上げているそうです。ほんの50年前には当たり前のように使っていた「風呂敷」や「はたき」、普段でも着て過ごすこともあった「和服」。両先生のお話を伺いながら、改めて日本人の賢さに気づくことができました。

11月13日には「相手を思って包む・贈るおもひ『折型・水引』」、11月20日には「着物文化：はじめてのきもの」と、「市民大学トラム」の残り2回の講座もとても楽しみです。



自作中の「はたき」



講師：内藤満里子 先生



自作の「はたき」 完成